＜令和７年度＞　とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	墨田区横川さくら保育園
施設所在地	墨田区横川 5-9-1
法人名	社会福祉法人希望福祉会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

水耕栽培
（ヒヤシンス）

＜テーマの設定理由＞

　土の中での栽培は根っこの成長を観察することはできないが、水耕栽培では、根が成長していく様子や変化を見て楽しむことができるので、根っこの生育の様子を共感しながら楽しんだり不思議に感じたりしていく。

２．活動スケジュール

２歳児１８名。
１月５日→球根の観察
１月６日から３月末まで→球根や根っこ、花の観察

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
・活動中の子供の姿・声、子供同士や保育士との関わり　等を記載ください。

【環境設定・素材・道具】
ヒヤシンスの球根・球根栽培キット・図鑑

【活動の様子】

野菜の栽培・再生栽培の振り返りを行った。そして、ヒヤシンスという花の写真を見ながら伝えた。日常的に目にする花は、土から生育しているので、土の中の根っこの成長を観察することはできないが、水耕栽培では、根が成長していく様子や根の変化を見る事が出来ることを伝え、水耕栽培に対して興味や関心が持てるように導入をおこなった。そして、興味や関心が高まったことをきっかけに、ヒヤシンスの栽培へと進めていった。

【活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり】

ヒヤシンスの球根を手に取り観察すると、「土の匂いがする」「ちょっとくさい」と個々に感じたことを答える姿が見られた。球根を球根栽培キットにセットし、球根の根っこがつかるまで水を入れることを伝えた。子どもたちは積極的に「やりたい」と声を上げ、一人ひとりが慎重に水を注ぎ、水に浸された球根を嬉しそうに見ていた。その後、子どもたちが見えるところに球根栽培キットを置くと、毎日のように気にかけ、子どもたちから「(根や芽が) 伸びてる」と変化を伝えてくる姿が見られた。根っこが絡まるように伸びてくる様子は、子どもにとって新たな発見となり、「おひげみたいだね」などと話ながら、興味津々に観察をしていた。球根から葉が伸び、つぼみから花が見えてくると、「お花が咲いたよ」「紫と白だったよ」と、指先で花に触れてみたり、匂いを嗅いで保育士や友だちに嬉しそうに報告していた。花が咲くと、根っこの様子よりも花の方に興味を持ち観察をしていた。この様子は、子どもと保護者が登降園時に一緒に観察し、親子で植物の成長を共有しながら楽しんでいた。

その後、花が枯れてきてしまうと、子どもたちから、「(お花の色が) 白から茶色になってる！」と言う発見があったので、保育士が「どうして色が変わったと思う？」と子どもたちに質問をしてみると、「んー。分からない。」「なんでだろう。」という子もいれば、「病気になったのかな？」「(お部屋が) 暑いからかな？」「太陽が当たってないからじゃない？」などという発想があった。今までの経験からの子どもたちの言葉に、感動しながら、その気持ちを受け入れ、球根栽培キットを戸外に出しどのような変化が見られるのか観察を続けた。しかし、花は枯れていく一方で、再生することはなかった。子どもたちに、「お日様があたっても咲かないね」「元気にならないね」と話ながら、花は枯れることを子どもたちと一緒に実感したできごとだった。

【水耕栽培についての説明中】

【使用した球根・キット】

【球根を観察中】

【球根の水の入れ替えをしているところ】

【根・お花の観察をしているところ】

【お花に優しく触れているところ】

【お花の観察・匂いを楽しんでいるところ】

4．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・プランターで育てた野菜の栽培とは違った栽培方法（水耕栽培）があることを、保育士も一緒に調べながら学び、その学びを子どもたちと一緒に共有し実践していくことで、保育士も子どもも楽しみながら栽培に取り組む事ができた。また、その中で子どもたちの興味や関心を広げる事ができ、この経験が、子どもたちの探究心へと繋がっていくことができていたら嬉しいと感じた。

・ヒヤシンスの花を図鑑で見つけたり、散歩時に似た花を見つけたりすると「ヒヤシンスかな？」という話をしている子どもの姿を見ると、植物に対しての関心が以前よりも広がったように感じた。

・根っこが伸びていく様子に対して、最初は興味を示し気に掛け、面白がったり、不思議がる姿が見られたが、つぼみがつくと、つぼみから花が咲く事への興味の方がより強くなっていったように思った。